

えさし



会場では乳児が権現様に厄よけをしてもらう姿も

地域に伝わる数多くの郷土芸能の保存活動に力を入れている広瀬地区の芸能発表会は6月17日、同地区センターで開かれました。

同地区は昭和55年に旧江刺市から「郷土芸能伝承のむら」の認定を受け、地域に根ざした郷土芸能を地区の活性化や住民同士のきずなを深めることなどに生かしてきました。神楽や剣舞、奴踊、獅子躍、人形芝居など多種にわたり伝承されているのが特徴。芸能発表会も32回目と回を重ね、地区の恒例行事として定着しています。ことしは12団体が出演し、約250人の観客を喜ばせました。

地域住民を挙げて伝承活動
広瀬で地区主催の芸能発表会

まちの話題



芸術文化団体の競演多彩に

市芸術文化協会が合同発表会

市内の音楽団体や郷土芸能団体が競演する、ふるさとの舞台・合同発表会は6月17日、前沢ふれあいセンターで開かれました。市芸術文化協会（及川和彦会長）と市教育委員会が主催したもので、各自治区から2団体ずつが出演し、日ごろの練習の成果を発揮しました。

昨年、市合併記念と芸術文化団体同士の交流を目的として、胆沢区で第1回を開催。1年ごとに各自治区で会場を持ち回る予定です。ことしは、バンドや吹奏楽団、民謡・舞踊、神楽、和太鼓からジャズ体操までさまざまな団体が出演し、約500人の観客を最後まで飽きさせない構成になりました。

会場を訪れた人たちは、舞台上で繰り広げられる多彩な演目に、感心したり、盛んに拍手を送ったりしながら、市内芸術文化活動のすそ野の広さを感じている様子でした。



古代の英雄をたたえる創作太鼓「母禮」を演奏する北天太鼓(前沢区)

ころもがわ

趣味の作品展示にもどうぞ

にぎわい創出に空き店舗活用



開催中の平泉文化遺産パネル展

水沢商工会議所（依田英晴会頭）は、水沢市街地により多くの人たちが集まり活気づくようにと7月1日、メイプル西館の空き店舗を活用し「街なか歴史ふれあい館」をオープンしました。同館は入館無料で、郷土の歴史・文化などを学ぶ場と、作品展示や講座の開設など誰もが気軽に利用できる施設として貸し出されます。初日の開館式では、もちまきや大森神楽（衣川区）の披露でオープンを祝いました。

館内では7月31日まで、平泉文化遺産の紹介と郷土の英雄アテルイのパネルを展示中。今後は後藤新平生誕150年記念事業のPR活動なども予定されています。

みづさわ

山々に住民の歓声がこだま

南股地区センターの開設を祝う

南股地区会（小阪和昭会長）が主催するさなぶり会は7月1日、同地区センターで開かれました。

地区センターは地域活動の拠点で、住民による1年間の検討を経て設立された同地区会が運営に当たります。施設は、昨年閉校した南股小学校の校舎を活用。地元の人たちにとっては、なじみの施設です。

ことしのさなぶり会は、地区センターの本格的な活動開始を記念して行われ、パターゴルフ大会など多くの催しが用意されました。約120人が参加したパターゴルフでは、初めての人も多く最初は珍プレーが続出。深緑の山々に、大きな歓声が響き渡っていました。



老若男女共に楽しんだパターゴルフ

街に広がるよさこいの熱気

前沢でよさこいフェスタⅢ



出演者と観客が一体となった総踊り

奥州前沢よさこいフェスタⅢは7月1日、前沢市街地で開催され、県内外から参加した44チーム、1200人の踊り手がエネルギッシュな舞いを披露しました。

3回目となることしは、昨年までのアスティ会場だけでなく、JR東北本線をはさんだ駅通り商店街やふれあいセンター野外ステージなど5会場で開催。運営に当たった大勢のボランティアが奔走し、2万人が集ったイベントを支えました。

真夏を思わせる炎天下の中、各団体の演舞や観客を交えた総踊りなどが行なわれ、曲や掛け声、歓声が前沢の街に広がった1日となりました。

まえさわ

いさわ

次の世紀の森づくりに一汗

ボランティアがブナ林の下草刈り

石沢ダム上流の「22世紀ブナの森」で6月20日、植栽して年の浅いブナの成長を助けようと、ボランティアによる下草刈りや除草作業が行われました。

22世紀ブナの森は、ダム上流の水源地保全のため、平成12年度からブナ苗を植栽するなどして整備されてきたものです。

この日は、胆沢区のボランティア団体・エコワークいさわ水（佐々木壽雄会長）の呼び掛けに応じた、胆沢建設業協会や胆沢区水道工事工業協会など7団体から約70人が参加し、およそ3畝の下草刈りと、ブナの苗畑の除草作業に汗を流しました。



緑に囲まれ手際よく作業する参加者